

平成27年度第2回 国土交通省東京航空局 入札監視委員会  
審議概要

開催日及び場所	平成27年12月10日(木) 国土交通省第2会議室B	
委員	委員長 浅野 正一郎(国立情報学研究所名誉教授) 委員 廣渡 鉄(弁護士) 委員 高田 和幸(東京電機大学教授)	
審査対象期間	平成27年4月1日～平成27年9月30日	
抽出案件	総件数3件	
1. 役務及び物品	一般競争入札方式(再度審議)	1件
2. 工 事	一般競争入札方式(政府調達に関する協定適用対象外工事)	1件
3. 建設コンサルタント業務等	一般競争入札方式	1件
各委員からの意見・質問、それに対する東京航空局の回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	再度審議案件を含め特になし	

審議概要

意見・質問	回答
<p>1. 役務及び物品（一般競争入札方式）（再度審議） 東京国際空港警備システム（陸上部）改修作業</p>	
<p>○製造業者保有の権利の利用許諾条件を除けば、応札が可能な者は何者いるのか。</p> <p>○汎用ハードウェアの情報について。</p> <p>○汎用ハードウェアがソフトウェアと一括調達となっていること。汎用ハードウェアについては、競争性を持たせた分割発注により、価格の低減が見込まれると思われるが如何。</p> <p>○製造業者保有の権利の利用許諾条件を付しても、競争性が成り立つとした理由。</p> <p>○今後の発注方法の考え方は如何。</p>	<p>○技術面では実施可能な者は多数存在する。</p> <p>○調達対象のハードウェアについては、全体額の約7.6%程度。</p> <p>○可能な限り、分割して発注しているが、空港のセキュリティー、アフターサービス等の検討結果を踏まえ、一括調達を行った。</p> <p>○連携体制構築のもと、他者への情報開示について製造者から可能と確認出来ていることから、他者が参加することは可能であるため。</p> <p>○製造・開発時において、トータルライフコストの費用対効果等を検討し、これまで以上により競争性及び透明性を確保した発注とする。</p>

審議概要

意見・質問	回答
<p>2. 工事（一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象外工事）） 東京航空交通管制部庁舎改修工事</p>	
<p>○発注前に全体額の参考見積もりを取るのか。</p> <p>○調査基準価格はどのように作成しているのか。省内基準によるのか。</p> <p>○どのように低入札価格調査をするのか。</p> <p>○評価点が高く、価格も安い、資料提出をしない業者がいることがもったいないような感想を受ける。</p> <p>○落札額が調査基準価格を下回っているが、それが妥当な額なのではないか。</p>	<p>○全体額の参考見積もりは取っていない。案件の大小にもよるが、このような大きな案件では全体額の参考見積もりを取ることはない。</p> <p>○そのとおり。</p> <p>○入札価格の妥当性を判断し、問題が無ければ落札決定をすることとなる。そのため、数多くの調査項目をチェックするための資料を提出してもらう。</p> <p>○提案の実現性やそれが良いものかは、資料提出をしてもらわなければ判断出来ない。</p> <p>○過大積算であるというものではない。</p>

審議概要

意見・質問	回答
<p>3. 建設コンサルタント業務等（一般競争入札方式） 滑走路等路面性状調査及びすべり摩擦係数定期点検調査</p>	
<p>○応札が可能な者は何者いるのか。</p> <p>○受注者は、過去にも実績があるのか。</p> <p>○調査に使用する特殊車両は業者が用意するのか。</p> <p>○調査自体は特殊で難しいものなのか。</p> <p>○もう少し応札者が多くなるのではないか。</p>	<p>○業者は40者程度存在する。</p> <p>○過去にも受注経験はある。</p> <p>○路面性状調査用の車両は業者が用意し、すべり摩擦係数測定調査用の車両は国が貸与する。</p> <p>○測定自体は機材さえあれば難しいものではないが、評価に関しては特殊な業務と思料される。</p> <p>○先般の高速道路のトンネル崩落事故を受けて、このような調査が多方面で発注されているため、参加者が少なかったのではないかと思料される。</p>